

色が変わった！

子どもたちの気付きの質に注目した事例です。子どもたちの姿をよく見ていると、気付きの場面は、たくさん見付かると思います。しかし、その質の違いを捉えるためには、同じ遊びを継続して把握することが必要です。気付きの質に注目することで、子どもたちの発達や体験の深まりを捉えることが期待でき、「科学する心」が育まれていくプロセスが見えてきます。

子ども（5歳児）

第2長尾保育園

<試したいことを見付ける>

- ・「先生！紫キャベツ載ってるで！この本みたいに（紫キャベツの色出して、出した色水にレモン汁や石鹼水を入れると色が変るとい）実験をしたい」と言う。
- ・「レモン入れたら色変わるんやって！石鹼も！」「重曹っていうのも持ってきて欲しい」「前、色変わったやつまたできるんちゃう？」と目をキラキラさせて言いに来た。
- ・数日後、この実験をすることになった。まずはみんなで紫キャベツから色を出すところから始めた。
- ・今までの経験から、「**水はあんまり入れたらあかな**」と水を入れ過ぎると色が出にくくなる事を確認しながら、黙々と色を作り始めた。色ができると、他児も「やってみよう！」とやる気満々な姿になる。
- ・「どうなるかな？」「ほんまに赤になるかな？」と図鑑も広げて期待しながら、レモン汁からゆっくりと垂らしてみた。
- ・すると色がすぐに赤に！！「うわあ！**一瞬で赤になった！**」「すごい！！」「やっぱり魔法や！」「レモンすごいな！」と大歓声。
- ・そしてすぐに「次は重曹やってみよ」と試してみた。「うわあ！**色変わった**」「**青になった！**」「すごい！」と言う。
- ・石鹼水も試すと紫から青色に変わり大興奮。
その後も色の変化を再び楽しむ子どもや、紫キャベツでの色出しを楽しむ子ども、紙に色を出す子どもなど、それぞれに好きな遊び方を楽しんでいた。
- ・紫になった色水を紙に描きうつし、その上から**レモン汁でもう一度描くと色が紫から赤に変化し、変化したことを喜んでいた。**



<例> こんなことができるのでは？の気づき

例えば、色水遊びの「こんなことができるのではの気づき」には、色を濃く出す方法の所に「袋でもむ」「水の量を調整する」など書いてある。



気づきの木

子どもたちの気付きを（子ども自身が書いたもの）6つの視点で分類して掲示、友達同士や保護者と見たり、語り合ったりして共有している。

[考察] 子どもたちは、レモン汁を入れると色が変わったのは、レモンの酸っぱさが勝ち、レモンの汁が強いからだと考えている。重曹を入れて青になったのは、白を混ぜたから（重曹が白色だったので）と予想し、石鹼水は石鹼が青っぽい色だからと考えたようだ。

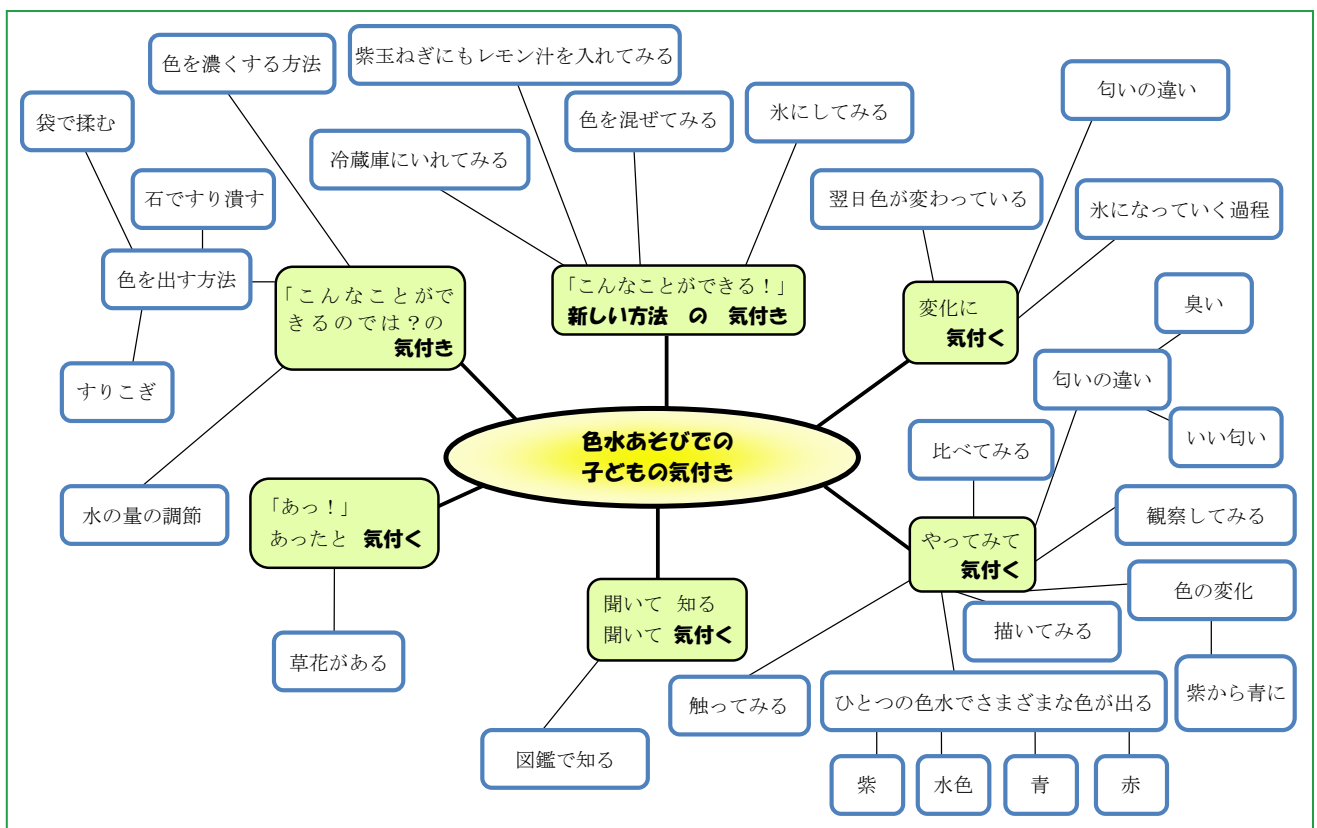
1つの遊びに於ける、子どもたちの気づきの姿を、「ウェブ」という形に図式することで、気づきの質の違いと共に、体験が広がったり、深まったりしていることが読み取れています。また、「気づきの質の違い」について、全職員間で具体的な子どもの姿の共有を図ることができます。気づきの質への注目は、「科学する心」の育ちを捉えるひとつの視点になっています。

保育者（気づきの質の違い注目・共有）

第2長尾保育園

子どもの「気づき」は、何種類かに分類できるのではないかと仮説を立て、「子どもの気づきの質の違い」に視点をおいて事例を検討することにした。そこで、気づきの質を ①「あ！あった」と気付く、②聞いて知る・聞いて気付く、③やってみて気付く、④変化に気付く、⑤「こんなことができるのでは？」の気づき、⑥「こんなことができる！」の気づきの6つに分類し、ウェブに示した。

色水遊びの子ども気づき



【考察】

- ・ 5歳児の気づきをウェブに整理すると、気づきが深くなっていくこと、一つの事から複数の気づきが見られることが分かった。
- ・ 今まで経験して確信を得た気づきや、友達同士で意見を出し合った結果の気づき（正解ではないかもしれないが子どもたち自身が出した答え）、実際に試してみたことを分かりやすくまとめて分析した結果の気づきがある。
- ・ また、図鑑で調べて答えは知っていることを実際に試したり、図鑑には載っていないことを試したりなど、<「こんなこともできるのでは？」の気づき>から、試行錯誤を繰り返したり、偶然の気づきから試してみても<新しい方法の気づき>へ移行していく様子が多く見られた。
- ・ 5歳児は、3歳・4歳の時に経験した一人一人の「気づき」が土台となり、自分の意見をまとめて発言する、友達の意見を聞き入れて試す姿があった。
- ・ 家庭でも、家族と一緒に違う素材で試したことや、試してみたが自分の想像していた結果とは異なったことも「気づき」が深まる結果に繋がった。